

東日本大震災・熊本地震 支え合おう!

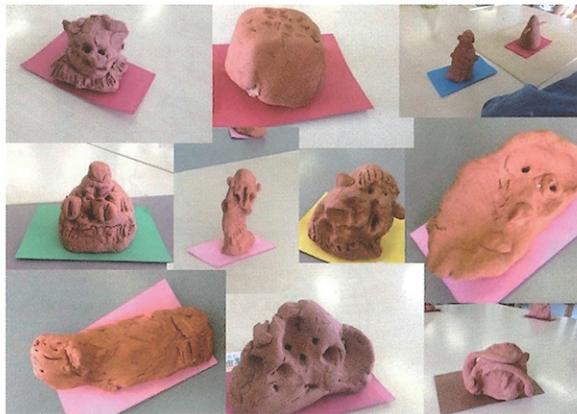
大介護時代の情報誌

[ベターケア]

# Better Care

特集

## つながる力の發揮 ～地域・人・文化が有機的につながるとき～



75  
2017 Spring  
春

百人百色の介護

板橋区 [東京都]  
横浜市戸塚区 [神奈川県]  
徳島市 [徳島県]

広がりのある  
介護事業を核に  
多様なつながりの場をつくる

加藤 忠相 [株式会社あおいけあ代表取締役]

インタビュアー：中澤まゆみ [ノンフィクションライター]

医療・介護・福祉を軸に  
地域づくりから人育てまで  
NPO法人三方よし研究会

住民と話し合い、力を借りながら  
地域の力を高めたい  
東京都板橋区

子どもやママの居場所は高齢者住宅。  
VRで進める認知症への理解

下河原 忠道 [株式会社シルバーワッド代表取締役]

対談

川嶋 紹市 [株式会社サンクラフト代表取締役]

浜田きよ子 [高齢生活研究所所長]

調理器具は「食べる」を支え、暮らしを彩る

地域の高齢者住宅から、  
まちづくり、  
さらにVR体験まで

## 駄菓子屋さんから銭湯まで

緑道に面した瀟洒な建物。小雨のなか、子どもたちが玄関に走り込んでいく。右手に小さな駄菓子屋さん。カウンターで若い男性が本を読みながら店番をしている。並んでいるのは昔懐かしい駄菓子から、現代らしいキャラクターのおまけ付き菓子など。店番は、初めは入居者が担当していたが、あまりの忙しさに現在は助つ人にも依頼している。

「ほかのところでは、1日最高9000円の売上なのに、ここは2万3000円の記録を持つている」と、下河原さんは笑う。いくら売り上げても、



下河原さんのバックは、ランチ中のご入居者さんたち。食堂にて

## VRで進める認知症への理解 子どもやママの居場所は 高齢者住宅。

しもがわら・ただみち ● 1971年、東京都生まれ。鉄鋼会社に入社後渡米、薄板鋼板の建築工法を学ぶ。2000年、株式会社シルバーウッドを設立。05年、初めて高齢者向け住宅工事を受注、高齢者向け住宅・施設の企画・開発事業を開始。11年、サ高住「銀木犀(銀ヶ谷)」を開設。介護予防から看取りまで行う終の住処づくりを目指す。VR事業も開始した。

お弁当やパンを食べている。(ここ)は児童館ではない。歴としたサービス付き高齢者向け住宅(以下、サ高住)。基本は高齢者の住まいだ。下河原さんはもともと建築が専門。薄板鋼板の工法を開発して、その販路拡大のために始めたのがシルバーウッドだという。ちょうど高齢者用住宅の設計施工の仕事が入るようになり、2011年、設計施工したサ高住「銀木犀(銀ヶ谷)」の直轄運営も任された。ここ「銀木犀(浦安)」はシルバーウッドにとって6棟目のサ高住。「今年4月開設も含めて現在7棟のサ高住、2棟のグループホームがあり、サ高住を2棟建設中です。ほかに、都内の広い工場跡地の開発も手がけていて、銭湯や外国人向けゲストハウス、一般の賃貸住宅なども備えた地域の人たちの拠点づくりを考えています」

### 近隣住民の居場所、交流の場

最初は建物から入った高齢者の住まいの世界。しかしいま、下河原さんの名前を有名にしているのは住まい方のソフト面での提案だ。「高齢者用の住まいが、『きれいな牢屋』では困ります。住もう人の自由や楽しみ、それぞれの

儲けはほとんどない。原価すれすれの価格で販売しているのだ。

## ■下河原忠道

[株式会社シルバーウッド代表取締役]



駄菓子屋さんは大繁盛

生き方を大切にした住まいであつてほしいじゃないですか」近隣との連携も大切にす。子どもたちは学校から一直線にここに来る。広くて居心地のいい場所で、遊んだり、宿題をしたり、おしゃべりしたり。はじめはどんなところかと心配顔にのぞきに来たお母さんたちも、今では安心している。

この4月からは、そんな近隣の人たちを対象に、「銀木犀食堂」が始まる。ワンコイン500円で午後1時～3時、食堂を開放。おいしい米や食材を使い、厨房でいちからつくりっているランチを提供する。入居者は「食事時間帯が結構早いから、それほど重ならないと思う」とのこと。だが、重なつたら重なつたでそれもいい、というのだ。

週2回、ドラムプログラムもある。これは東北大学加齢医学研究所の川嶋隆太教授から学術指導を受けたプログラム。近隣の人たちも参

### 株式会社シルバーウッド

〒107-0062  
東京都港区南青山3-2-2  
MRビル7F  
TEL 03-3401-4001(代表)  
代表取締役 下河原忠道  
設立 2000年  
資本金 4,000万円  
●VR事業部  
取材・体験会・その他に関するお問い合わせ  
VR@silverwood.co.jp  
TEL 03-3401-4001

「いま子どもとおとしょりが身近に触れ合う場所がないでしょ。銀木犀なら自然にそれができます。認知症があつてもふだんから触れ合っていれば、偏見を持ちませんよ」

認知症をもつお年寄りが駄菓子のお釣りを間違えても子どものほうが「違うよ」といつてくれる。怖い、変だ、は、ふだんのふれあいがない

「認知症や看取りを学ぶことは、自分自身を学ぶことだと思っています。認知症予防にみんなでレクリエーションを、というのはあまり好きではない。したい人だけ参加すればいい。日常的にコミュニティに参加し、人とのかかわりを増やすことが大事。そしてもし認知症になつても、それが必ずしも不幸なこととは思いません。認知症のある方やその家族が生きづらい世の中の方が問題でしょう」

銀木犀では看取りも実施している。現在銀木犀での看取り率は3ホームで約76%で、これからはさらに進めたいという。

加している。



玄関脇の談話室は、日中は子どもたちの居場所。朝、夕は入居者がくつろぐ

からの反応だ。

## 体験してみてわかること

いま、下河原さんが進めている新しいプロジェクトがVR認知症プロジェクト。

「せっかくのVR技術をゲームに独占させておくのはもったいない」と、認知症の人の視線で周りを見て、認知症の人の気持を体験するプログラム。すでに4タイトルあり、いろいろなバージョンを体験できる。

第1作の「ここはどこですか?」を見る。VRヘッドギアを付け、電車内の座席に座っている女性のつぶやきを聞く。ギアをつけた頭で周囲を見回すと視界が変わり、車内の人びとが見渡せる。「ここはどこ? 降りる駅を忘れた」という女性の不安がひしひと伝わる。

「実際に認知症 자체を体験することは難しいですが、VRで体験すれば、認知症になつた人の心細さや恐怖も伝わります。中核症状を擬似体験することで、認知症になつた人がなぜそんな行動をとるのか、その意味もわかります」と下河原さんはこのプロジェクトの意義

## 銀木犀<浦安>

〒279-0043 千葉県浦安市富士見4丁目3-1

銀木犀<浦安>

☎ 047-700-7900

月額料金: 205,000円~(税込 212,000円~)

\*家賃・共益費・生活支援サービス費・食費を含む

入居対象者: 概ね65歳以上の方、要介護認定を受けている方

\*既定の入居審査あり

概要: サービス付き高齢者向け住宅 42室

(1人用: 40室 2人用: 2室)

118m<sup>2</sup>~27m<sup>2</sup>



を語る。

今年から、SOMPOケアネクストでは新人研修などでこのシステムを取り入れることになった。そのほか各地の学校、病院、市民団体の集会などでの体験会の予定も目白押しだ。「一度体験してみると、認知症への理解がまったく変わると思います。映画やテレビと違ってVRでは自分の頭の向きと視界がリンクするので臨場感が違います。ぜひ試してみてください」すでに、レビュー小体型認知症本人の樋口直美さんの協力を得て、レビュー小体型認知症の人の幻視など体験するタイトルも完成している。下河原さんたちは今後も、作品数を増やしていく予定。このプロジェクトは介護業界の新たな風にもなりそうだ。